

閉会あいさつ

地域経済研究推進協議会会長 堀内日出夫

本日は皆様方、ご多忙中にもかかわらずご参加いただき、また熱心にご聴講いただきまして、ありがとうございました。

地域経済研究推進協議会は、いわば広島大学の地域経済システム研究センターの応援団です。私自身も中国経済連合会として中国地方のブロック問題に取り組んでおりまして、その企業や団体に会員になっていただき、この地域の発展の一助になろうということで業務を進めております。地域の皆さんや企業の皆様からのいろいろなご意見やご要望を踏まえながら、これらを取りまとめて関係機関、政府機関等に提言活動をやっておるところでございます。

先日も、中部・北陸・関西・四国・九州・中国から構成される西日本の経済団体の集まりがございまして、そこで今年度のいろいろな要望活動に関する決議をいたしました。その中で近年変わってまいりましたのは、従来は社会資本の整備、道路・港湾・空港などを中心に建設促進という中心課題があったのですが、ここ2、3年来は地域としての分権の課題が大きく出てまいりました。私どもは分権推進という立場でございますので、先般の決議でも「地方分権改革の推進」ということで、地方分権改革を加速していくべきであるという決議をいたしまして、これをもって働きかけて運動を進めていこうということになりました。

ただ、その中で中部とか関西のように自立可能なところは熱心で一生懸命やっているのですが、それ以外は何となく自立がどうかというような問題もあって、一つの不安も抱えたようなところも実際あります。したがって、「国と地方の税財政改革、三位一体改革の加速と新たな地域間財政調整制度の構築」という項目を一行入れておりますので、そのへんが調整の結果でございます。それ以外にも、産業の活性化でありますとか、社会基盤整備につきましても、地域によっては十分とはいえないような状況なので続けてやることにいたしております。こういった活動につきましては、地域経済システム研究センターの伊藤先生のご指導も受けましてまとめておるところでございます。

今日のお話で「都市再生」のこともたいへん興味深くうかがいました。私も2004年8月の終わり頃に北欧のストックホルムとヘルシンキに行きましたけれども、「従来型都市はみな衰退している」と藻谷さんが言われましたが、あそこはそれほど衰退している印象は受けませんでした。伝統と文化の薫る美しい都市で、まさに「千客万来」という感じがいたしました。ただ、もう一つの関心事である産学官連携については、1980年代

後半から既に取り組んでいるということで、これが佐藤さんご紹介になった「クリエイティブ・シティ」というのでしょうか。ただ工業団地を造って軽減税率などで企業を誘致して来て工場をどんどん建てるのではなくて、「都市新生」という感じでやっておられるようで、そこには工場もありますが、ほとんどは研究機関のようなものがたくさん集まっておりまして、そこにシアターやレストラン、湖などが周りにある非常に環境のいい街をつくって、そうすることによって世界から優秀な人材を集めて来て新しい技術や産業を核にこの国を支えていこうとしています。

人口が400万とか800万とかいう小さな国ですから、そういう知的産業という面で生き残っていこう、そのために何が大切かという、それは人材だということです。すなわち教育、大学がその街の中心にあるというのを見てきたわけです。私どもも産学官連携に取り組んでいるわけですが、ややこれは周回遅れという感じもいたしまして、これはもう少しがんばらなければいけないと思った次第でございます。

最後に、この研究集会にお集りいただきました皆様に重ねて感謝申し上げます。ありがとうございました。事務局の皆様にも感謝したいと思います。

たいへん簡単ではございますが閉会のごあいさつとさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。